

厚木市No.33・158 遺跡



1. 遺跡の立地と周辺地形（南上空から）



2. K1号畝状遺構（西から）



3. H1号溝状遺構（西から）



4. H1号溝状遺構底面の工具痕

● 主な調査成果

令和2年度の調査では、近世および奈良・平安時代の遺構と遺物が発見されました。近世の遺構としては畝状遺構・溝状遺構・土坑・ピットが確認されました。畝状遺構や貯蔵穴と推定される長方形土坑が見つかることから、耕作地として利用されていたことが考えられます。遺物は陶磁器や金属製品、銭貨が出土しています。

奈良・平安時代の遺構としては、道状遺構・溝状遺構・ピットがみついています。H2号道状遺構は溝状の掘り込みがあり、底面に複数面の硬化面が確認されました。H1号溝状遺構は長さ約40mを誇る長大な遺構で、調査区内を概ね東西方向に延伸しています。現時点ではどのような性格・用途であったのかが判然としません。溝の底面から掘削に使用した工具の痕跡が確認されました。遺物は土師器・須恵器が出土しています。

- 調査期間 2020年11月1日～調査中
- 事業者 国土交通省関東地方整備局
- 調査原因 一般国道246号（厚木秦野道路）建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
- 時代 近世、中世、奈良・平安、古墳
- 所在地 厚木市中依知
- 遺跡位置 小田急小田原線本厚木駅の北約4kmの中津原台地上

